

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0854		
施設名	そらのいえ保育園		
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1		
法人名	社会福祉法人わかば		
活動期間	令和	7	年 4 月 から 令和 8 年 3 月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://www.soranoie.jp/rinen.html

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	生き物には生きてきた初めがあって、終わり（死）がある。次に生きていくものたちの為に色々なものを準備して死んでいく。「生き物はみな、それぞれに役割がある」という話を、文化年間プログラムを通して、実物や写真などを通して見たり聞いたり考えたりしながら1年に亘り、探究活動を実施する。					
実施回数・期間 （注2）	大きなテーマに沿って一年を通じて4月から3月。					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
		人	人	人	人	14人
活動内容 （注3）	・世界の大陸・引力・浮力・表面張力・融解、気化・宇宙と星・生命の歴史を実験出来るものは実験して体感する。生命の歴史は年表や実物を交えて話をした。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 年長児14名を7名ずつのグループに分けて活動していった。少人数にすることで、お互いの意見を言い合うことができ、それをくみ取りながら実験に取り組むことができた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか その都度、保育者がメモを取る事と、写真で活動を記録した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 実験の様子を全体で提示した後に、1人でも行えるように準備し、時間の制限を設けずに取り組めるようにした。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 全体で行った提示の後に、個人の時間をもち、やったことの振り返りができるようにした。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 ホームページ、園便りへの掲載。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 実物を触ったり、関連する本を用意したり、自分で調べることができる環境を整えた。子どもへの問いには答えを出さず、興味のある範囲で調べられるように整備し、自分から動けるように発展教材を用意した。					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0854
施設名	そらのいえ保育園
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1
法人名	社会福祉法人わかば

1. 活動のテーマ

<テーマ>

地球の成り立ち

<テーマの設定理由>

生き物には生きてきた初めがあって、終わり（死）がある。次に生きていくものたちの為に色々なものを準備して死んでいく。「生き物はみな、それぞれに役割がある」という話を、文化年間プログラムを通して、実物や写真などを通して見たり聞いたり考えたりしながら1年に亘り、探究活動を実施する。

2. 活動スケジュール

・ 4/17,24（過去未来） ・ 5/8,15（大陸） ・ 5/22,29（自然物） ・ 6/5,12（引力）
・ 6/19,26（浮力） ・ 7/3,10（比重） ・ 9/11,18（融解、気化）
・ 9/25,10/9（色々な液体） ・ 10/16,23（宇宙と星） ・ 10/30,11/6（生命の歴史①）
・ 11/20,12/4（生命の歴史②） ・ 1/15,22（生命の歴史③）
・ 1/29,2/5（生命の歴史④） ・ 2/12,19（まとめ） ・ 3/30（砂鉄）
・ 上記合同でのテーマ活動以外に、普段の活動のなかで年間を通し、個人毎の探究活動を支援した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

磁石、小物

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年間スケジュールに基づき、引力（物の性質を知る）をテーマに実施。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

物の名称を紹介した時（乾電池）

T「これ分かる？」 C「電池」 T「乾電池。何に使う？」

C「電池入れる。おもちゃ使えなくなったら使うやつ。」

T「これが入っていると動いたりする。これがないと動かないのね。」

C「リモコン。」 T「そうよね。」

C「ピアノの電池もこれ。おうちにある。」 T「そうなんだ。」

C「電気使うため。古くなるので入れ替える。」

T「古くなったりするんだね。形は変わらないけど古くなると入れ替えるのね。」

物の名称を紹介した時（ホチキスの針）

T「これ知ってる？何に使うかな？」 C「カッター？」

T「保育園でも使ってるよ。今日も先生は2回くらい使ったよ。ホチキス、知ってる？」

C「知ってる！」

T「ホチキスの針。中に入っているとわからないよね。こういう形なんだね。ガシッと止まる。」

物の名称を紹介した時（ネジ）

T「これ見たことある？」 C「ネジ。」

C「リュックとかかかるところ。」 C「おうちのカーテンのところ。」

T「何かを止める時に使うよ。ここ（ネジ穴）に何かを使って止める。ドライバーっていうよ。」

磁石を紹介した時

T「磁石って何だろう？」 C「くっつくもの。」

T「初めて見た人？使うの初めて？こうすると何かつくよ。」

C「青い方がくっつかない？」

C「英語のどっちもだとかくっつく？」

C「赤も青もくっつかない？」

T「磁石にくっつくかくっつかないか自分で考えてやってみよう。」

実験した時

C「かぎ針棒。」 T「くっつくと思う？くっつかないと思う？」

C「つく！」 ※実験（つかない）。

C「あれ？」 C「頑張れー！」 C「つかない」

T「つかないね。どっちの箱に入れたらいいと思う？」

C「つかない方。」

T「つかないものを見つけてもいいんだよ。」

C「リング。」 T「リングはつくと思う？」

C「つく。」 ※実験（つく）

C「くっついた！」 C「わーい！」

C「カプラ。」 T「つくと思う？」 C「わかんない。」

T「じゃあ、やってみようか。」 ※実験（つかない）

C「つかない。」

C「ピンセット。」 C「つく！」 実験（つく）

C「おー！」 C「横もつけてみて！」 C「もう1回やりたい！」

C「はさみ。」 T「つくと思う？」

C「つく。」 ※実験（つく）

C「紫のこ（持ち手）もやってみて！」 ※実験（つかない）

C「真ん中は？」 ※実験（つく）

T「はさみは、つくところとつかないところがあるね。つくところと、つかないところがあるものはこの箱に入れようか。」

実験（もっと強い磁石を用意した時）

※強い磁石をつくものの箱に近付ける。

C「ついた！」 C「ピューって浮いた！」

T「ほら、安全ピンもついた。クリップも。おもしろいね。」

C「めっちゃすごい」

※強い磁石をつかないものの箱に近付ける。 ※実験（つかない）

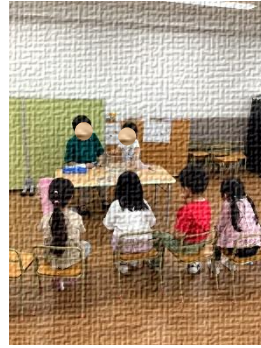
T「とっても強い磁石でも、つくものと、つかないものがあるんだね。」

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身の回りにある名称の分かる物を一つ一つ紹介してから、磁石を紹介し、子どもたちは「これはつく、これはつかない」と言ってから、実際に磁石を近づけてつくつかないを実験した。「光っているからつくよ」とか「大きいからつかない」など色々なことを子どもたちが考えて自由に発言していた。実験には関心、興味度は高い。



実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0854		
施設名	そらのいえ保育園		
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1		
法人名	社会福祉法人わかば		
活動期間	令和	7	年 4 月 から 令和 8 年 3 月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://www.soranoie.jp/rinen.html

2. 活動報告（注1）

番号	2					
テーマ	葉のかたち					
実施回数・期間 (注2)	令和7年5月より令和8年3月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
					18人	14人
活動内容 (注3)	①葉で遊ぼう ・同じ形の葉を探す。色々な形の葉を探す。色々な色の葉を探す。・落ち葉を集める。落ち葉を踏んで遊ぶ。②葉の観察 ・葉の形の違い・・・葉の筆筒というモンテッソーリの教具を使用し、葉の形の名称を知る。③葉の部分 , 花の部分の名称の紹介					
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 人数が少なかったので一つのグループとして活動した。グループの中で話し合う時間を取り、自分の意見を発表することにした。自分が話すとき、相手の話を聞くとき、順番を意識しながら交代で話すことにより相手の意見もしっかり聞くことが出来た。話すことが得意な子どもと苦手な子どもで補い合う様子が見られた。					
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか 戸外での活動がメインであったためあまり写真が撮れなかったが、子ども達の言葉をメモで記録していった。					
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 一人ひとりの意見に耳を傾けながらその子なりの活動の展開が出来るように援助した。葉の形をテーマに進めていったが、形の変化に興味を持ち、ものの形について活動を進める子や、色に興味を持ち活動を進めて行く子がいるなどそれぞれの活動へと変化していった。保育者は子どもが興味を持ち進めようとする活動の手助けができるよう見守るとともに、興味を持っていない様子の子と一緒には他の友だちの活動の様子を見たり、話を聞くなどしながら進めて行った。					
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法 子ども達と活動について振り返り、それぞれの活動の楽しかったところなどを聞く時間を持った。顕微鏡を使い葉や花をみる際には、年長児だけではなくそばにいた年中児や年少児も一緒に観察し、年中児の中には「来年はぼくたちも葉っぱ探したい。」との声も上がった。					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 保育士には会議での活動報告をおこなった。					
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫 卒園前の年長児だけの時間を使い振り返りを行った。お散歩に出かける際には、木や葉っぱの名前を言いながら歩いた。身近に色々な葉っぱや樹木があり何度か繰り返すうちに、子どもたちから気付いて教えてくれるようになった。色や形の違いを探す活動だけではなく、普段の生活の中に取り入れながら活動の展開を楽しんで行った。						

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的(月を単位とする複数月)に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0854
施設名	そらのいえ保育園
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1
法人名	社会福祉法人わかば

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「葉のかたち」植物によってそれぞれ葉の形や、花、種など違いがある。同じ植物でも違うのはなぜなのか？子どもの素朴な疑問から植物の葉について調べることにしました。①植物の葉はそれぞれ大きさや形が違う。②葉を見ただけでどんな植物かわかることがある。③葉っぱの部分の名称を知る。という3点を中心に環境の中の植物の観察や葉の形の呼び方を知ることでもっと植物に興味を持ってもらいたいと探究活動を行う事にしました。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 保育園の玄関のプランターに年長児が野菜の苗を植え、毎日水やりをしながら育てています。育てた野菜は給食のメニューに加えていただき、お味噌汁としてみんなで頂いたり、8月の終わりに夏野菜焼きそば(食育活動)で使用しています。またお泊り保育での夕食(カレー作り)に使用するなどし、育てた野菜を食べることで野菜が苦手な子どもも自分が育てた野菜!と口にすることが出来るようになっていきます。大きくなっていく様子をみんなで毎日観察しながら大切に育てています。昨年度年長児が葉っぱについて活動する様子を見ていた子どもたちから「僕たちも葉っぱのお仕事やってみたい。」という声もあり今年度も引き続き活動することにしました。

2. 活動スケジュール

グループ活動…葉の観察→葉の部分の名称(花)→身の回りにある植物の観察→戸外(公園)での観察 個別活動…色について(色板)→葉の形(葉の筆筒)→小さい本づくり
グループ活動は9月、10月に行い、その後10月から3月にかけて個別活動へと展開していった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)・モンテッソーリ教具(葉の筆筒、色板)・購入したもの(顕微鏡、ipad)モンテッソーリ教具はいつでも使えるように保育室に準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

①園の周りにある植物の観察…プランターに植えて育てていた野菜の葉っぱ、葉のつき方を観察する。②いろいろな形の葉っぱを探す…公園へ行きいろいろな形の葉っぱを探す。生えている葉っぱは観察し、落ちている葉っぱは拾って持ち帰ることにし探していった。集めた葉っぱを友達同士見せ合う。③葉のタンスを使って葉の形の名称を知る。④色板を使用し、色の濃淡を知る。⑤葉の名称、花の名称を知る。⑥小さい本づくり⑦葉っぱの形について知っている事、新しく知ったことなど話す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) ①プランターのナスの葉を観察しているときに、形の違いに驚いている様子の子や触って「ちくちくしている。」という声でみんなが葉っぱを触り、ちくちくしている葉っぱを触った。「となりのキュウリはもっとちくちくしている。」と気づき周りのプランターの野菜を触って比べる子もいた。プランターだけでなくおしろいばな、桜など周りの植物にも気づき触る様子があった。「もっとほかの葉っぱも触ってみたい。」という子どもの声上がり、後日公園へいく事にした。普段グループの中では自分から発言することが少ない子も葉っぱを触りながら「大きさが違うね。」など声を上げていた。②保育園の周りの植物について観察。おしろい花や桑の葉など雑草がたくさん生えており、葉っぱの形や手触りを確認した。レモンの木もあったが青虫にすっかり食べられてまる裸になっていた。植物によっては虫に食べられる事もある事を知った。③ふるさと浜辺公園(砂浜や大型遊具のある広い公園)で葉っぱ探しを行ったが、途中遊具で遊びながら自由に活動した。子どもたちから「生きている葉っぱはとったらだめだよ。」「おちているはっぱだけはいいよ。」というルールができ、生きている→ちぎってしまうと死んでしまう(枯れてしまう。)という意識があることに関心した。自由に散策しながら、また遊びながら解放的な気持ちで葉っぱ探しを行うことでそれぞれが自由に様々な葉を集めてきていた。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

昨年度の活動を見ていた子どもたちからの声から始まった活動だった。昨年の反省を生かし、葉っぱという大きなくくりではなく、葉っぱにも種類がありそれぞれの部分に名称や役割があることを伝えることから活動を進めて行った。モンテッソーリの文化の活動の中で自分たちの住んでいる国、日本について自分たちで調べて活動したり日本地図を製作している。地図の活動の展開として時間があれば地域によって生育する植物の違いや、実際に生葉を使って押し花などを作っても面白かったのではないかと思う。昨年もそう感じていたが、準備が間に合わなかった。写真ホルダーという教材を作り日本全土は難しくても何枚か準備しても良いと感じた。公園でいろいろな形の葉を探しに行く際には、公園までの道のりで街路樹や民家の植栽に子どもが気づき、葉の形だけでなく木や植物の名前を尋ねてくることがあった。名前の分からない植物もありすぐに調べることができるように図鑑を準備したが、図鑑に載っていないものも多かった。偶然見つけるだけでなく事前に準備することも必要だと感じた。子どもたちの発見や、気づきはひとりひとり違い、興味や関心もそれぞれ違う。全体での活動での発見や気づきを個別の活動として展開し、深めていき、まとまりができてきたところでグループでの分かち合いなど友達の活動を見ることはとても良い刺激になったと思う。来年度も引き続きこのテーマで活動していき、次回は大きさについても注目していきたいと思う。活動を進めて行く中で積極的に参加できなかった子も戸外に散策に行くときには参加しており、どのような形で参加できるのか個々の対応も気を付けていきたい。



実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0854		
施設名	そらのいえ保育園		
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1		
法人名	社会福祉法人わかば		
活動期間	令和 7 年 7 月 から 令和 7 年 9 月		
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://www.soranoie.jp/rinen.html

2. 活動報告（注1）

番号	3					
テーマ	水遊び					
実施回数・期間 (注2)	2025年7月～2025年9月					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
				20人	17人	14人
活動内容 (注3)	ウォーターテーブルやジョウロなど様々な道具を用い、変化する水の様子を観察したり、水を使う遊びを仲間とともに工夫して行う。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか ウォーターテーブルの台数を絞り、グループで遊べるようにした。学年ごとや、3～5歳児合同で一緒に水遊びをすることで、子ども同士の関わりを促した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 写真で記録。言葉は活動後に記述。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 水をすくったり受け止めるためのジョウロや、型、スコップなどは参加人数よりも個数を増やしておき、子どもが自由に選択できるようにした。水の流動を感じられるウォーターテーブルや、散水パターンが変えられるホースを用意し、水の形が変化する様子を観察した。テント下で行うことで、暑さによる集中力の低下や、子どもの探究心が途絶えないように配慮した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 職員会議で振り返った。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
	※教諭や保護者等への共有方法 ホームページ、園便りへの掲載。					
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 ・遊びに集中できるよう、気温が高い場合は、あらかじめ水を散布することで、子どもたちが遊ぶテント内の温度を下げしておく。 ・水遊びの玩具の充実。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0854
施設名	そらのいえ保育園
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1
法人名	社会福祉法人わかば

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水遊び

<テーマの設定理由>

水に慣れ、水に親しみ、水の感触を楽しむ。水の変化を知る。

2. 活動スケジュール

2025年7月～2025年9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ウォーターテーブル、ジョウロなどの玩具、ホース、テント

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ウォーターテーブルやジョウロなど様々な道具を用い、変化する水の様子を観察したり、水を使う遊びを仲間とともに工夫して行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ゴム製の水風船に水を入れる。

C「見て、（水が）こんなに入ったよ」

T「たくさんお水が入ったね」

上から落としてゴム製の水風船が割れる事を発見。

C「たまごみたい」

T「ほんとだねー」

ホースの近くで水を入れようとしたところ、顔にかかる。

C「きゃー！お水いれたい！」

T「離れたところだとお水いれられると思うよ。」

水の勢いが弱い所に子どもが移動して水をジョウロに組むことに成功。

C「に入ったよ！」

C「お水くみたいから優しい水にしてー。」

T「いいよー」

ホースから出る水の勢いが強かったため子どもからのリクエスト。

おもちゃに水をいれるときに、ウォーターテーブルの上から流れてくる水だけでなく、下に溜まった水をスプーンでもすくって入れられることを子ども同士で発見。

C「ここでもできたよ。」

C「水を入れるね」といって上から流す。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・水の勢いを自ら体験することで、どのようにしたら思うように水をくむことができるのかを考え、経験してくむことができていた。体験しながら、考え試してみることで、気づきになり、その後の遊びに取りいれられていた。経験をする事で、見ることからでは得られない物も獲得することができ、イメージしたような遊びを展開することができていた。水遊びは、子どもたちが体感しながら遊びを考えていく場面も多く、楽しい遊びを見つけると友だちと共有する場面も見られた。

